

第575回遊佐町議会定例会一般質問通告書

令和6年10月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	9 番 菅原 和幸 (一問一答)	1. 豪雨災害発生の要因を検証しそれを解消する施策と対応を行うべき	<p>7月25日の豪雨は、「昭和58年7月26日」の記憶を甦らせ、当時以上のつめあとを町内全域に残した。</p> <p>町が、蔵岡地区の5集落に避難指示を発令したのは、午前9時過ぎである。県内では、本年5月23日から「土砂災害に関する警戒情報の発表基準」が見直された。この度の豪雨災害に対応した首長による「流域治水協議会」でも、情報提供を受けるホットラインが機能したと評価されたようであるが、避難指示を行うに当たり、山形地方气象台等との連携は十分であったか。</p> <p>町長は9月1日の広報に「災害に対し脆弱な点を検証し課題に取り組む」と寄稿されている。中山間地域を含め広範囲に被害が及ぶ中、吹浦の元町や六日町及び十日町付近では多くの建物が浸水、家財等に被害をもたらしたほか、生活面で必要とする機能が、長く停止している施設もある。</p> <p>そこに住む方々が、将来も安心して暮らすには、浸水した要因を詳細に把握し、その上で必要とする対応を行うべきと考える。現時点で、浸水した要因をどう把握されているか。</p> <p>一方、文部科学省は7月24日から26日に発生した山形県周辺での大雨を対象に行った「地球温暖化の影響評価」の結果を9月2日に公表した。温暖化がなかったと仮定し比較した場合、総雨量が20%以上増加していたとの内容である。</p> <p>「遊佐町ゼロカーボンシティ宣言」に関連する施策を明確にし、町民に「見える化」することが、遊佐町の未来に繋がるものと考えている。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
2	1番 遊佐 亮太 (一問一答)	1. 遊佐高校魅力 化プロジェクトについて	<p>山形県立遊佐高等学校に対する支援や、町として期待するところをお伺いしたい。</p> <p>「遊佐高校魅力化プロジェクト」と題し、町として遊佐高校を盛り立てている。地域みらい留学の制度を活かし県外生が遊佐高校に通うようになり、それが定着しつつある。一方で、今年度は入学者数が20人に達しなかった現状がある。令和5年3月策定の「山形県立遊佐高等学校魅力化推進計画」というものがあるが、こちらの計画の進捗状況についてお伺いしたい。</p> <p>遊佐高校に通う生徒に何を求めるか、どのような生徒に遊佐高校に来てもらいたいのか、町としてどのように考えられているのかをお伺いしたい。</p> <p>少なくない予算をこのプロジェクトにかけているが、今までの推移と今後の見通しについてお伺いしたい。</p> <p>このプロジェクトに関わる人々はどのような立場にあるのか、それぞれに期待する役割についてお伺いしたい。</p> <p>今後このプロジェクトをどのように発展させる計画でいるのかをお伺いしたい。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
3	2 番 伊原 ひとみ  (一問一答)	1. 災害の対応と今後の課題について	<p>7月の水害は遊佐町にとって経験したことのない大きな災害であり、町長はじめ町職員の対応も困難を極めたことと察する。</p> <p>また、9月6日に激甚災害に指定されたことにより、インフラ等の復旧も財源の不安もなく進められることに安堵している。</p> <p>災害対応はどれが正解かもわからず、迅速性を伴い、町民が100%満足できる対処が難しいと理解している。</p> <p>あれから2ヶ月以上経ち、被災者の生活も少しずつ日常を取り戻しつつある。</p> <p>全員協議会など折に触れ災害対策本部会議の報告を受けているが、防災士の資格をお持ちの町長に伺う。</p> <p>振り返っての反省点、今これからすべき支援、今後の課題をお聞きしたい。</p> <p>それに伴い中止、延期、見直した事業の内容と、今後それらの方向性を問う。</p>
		2. 被災農家へのサポート	<p>この災害で農地もかなり被害があった。復旧も急ピッチで進んでいるが、被災された農家は来年以降の農作業を苦慮されていると思われる。</p> <p>相談も多く寄せられていると思うが、彼らへの対応、サポートはどのように行われているのか。</p>
		3. 新規就農への対策	<p>所管の課では農家へのあらゆる支援事業を準備し、対応しているが、これらは就農を決めた後の人たちへの事業であって、その前段階が一番問題と思われる。</p> <p>農業に興味があるか、なぜ農業を選ばないのか、問題がクリアしたら農業も選択肢にあるのか、など原因を追究し、問題の改善、対策そして啓蒙活動をしてはじめて就農者が増えると考える。</p> <p>ここの部分の研究、原因究明、対策をどう行っているのか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	6 番 本間 知広 (一問一答)	1. 今後の財政見 通しは	<p>7月25日に発生した豪雨により、当町では甚大な被害が出た。家屋等の浸水被害はもちろん、農地や道路(農道や林道を含む)、上下水道など多岐にわたる。町では復興を目指し、情報の収集を行いながら、予算付けを行ってきた。</p> <p>災害復旧を最優先に、9月10日に臨時会を行い、専決処分を含む総額27億9千万円の補正予算を組み、事業にあたっている状況だ。もちろん、これで終わりということではないので、今後また必要であれば補正予算を組まなければならないだろうと推測する。これらは1日でも早く普段の生活に戻るために必要なものであると認識している。</p> <p>しかし、予算にも限界があるのが現実である。復旧にかかる補正での一般会計からの持ち出しの内容は、前年度繰越金と町債がほとんどであり、先の臨時会での確認によれば「前年度繰越金はもう使えない」とのことであった。</p> <p>今後の補正はもちろんだが、来年度以降の予算編成にも間違いなく影響は出てくるものと認識している。今後どのように財源を確保していくのか、見通しを伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
5	7 番 那須 正幸 (一問一答)	1. 都市下水路は豪雨災害に対応できるのか	<p>7月25日の大雨により町内各地では家屋の床上、床下浸水被害が確認され、罹災証明を発行するという今までにない大災害に見舞われた。家屋への被害が特に大きかった地区に関しては共通の「都市下水路」がある。</p> <p>吹浦地区の場合は月光川の氾濫により水位の上昇があった場合、水門を閉じ外部からの水の侵入を防ぐ役割を持っている。しかしながら今回の大雨は、一時間に100mm以上の降水量となり、すり鉢状の地形も重なり水門の閉鎖後30分足らずで、くるぶしから腰までの水位となった。また、下タノ川から六日町深山神社裏に繋がる「都市下水路」には、まだ水門の設置はなく、今回は月光川の増水により内部の排水が間に合わず逆流したものと推測される。この2地区に関しては過去にも同様の水害があったが、これまでは「都市下水路」の整備後災害はなかった。しかしながら近年の気象状況により、急な線状降水帯の発生により、命の危険に関わるような大雨が今後も1年に数回の割合で起こることになれば、町民の方々が安心安全に生活を送ることが出来なくなるのではないかと懸念されている。現在の気象状況では再び同じ雨量の大雨が降ることも想定できることから、早急に「都市下水路」の豪雨による内水氾濫に対応すべく、新たに排水機場の設置が必要と考えるが、町としての今後の対策と考えを伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
6	4 番 今野 博義 (一問一答)	1. 指定管理料と業務委託料について	<p>年々増加傾向の指定管理料。今後開設予定の新道の駅も含めるとかなりの大幅増額が推察される。令和6年3月定例会において遊佐町総合交流促進施設他6件の指定管理者指定の提案が議会になされ可決されたところではあるが、その後令和6年7月10日の全員協議会において指定管理者の事業報告書が提出された。「報告義務のみであり質問事項は紙面にて提出、可能なかぎり対応する」とのことから令和6年7月16日付議会事務局を通じ提出したが現在までに回答はない。改めて質問事項を確認するとともに、直近の事業報告が示されていないなかで協定期間満了直前の議決提案であること、議決のタイミングも含めて今後増加すると推察される指定管理料への町の考え方をお聞きする。</p> <p>同様に増加傾向にある業務委託料。指定管理については「遊佐町公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例」によるが、業務委託発注の際の事業者選定方法や委託料算定手続きの法的根拠、一般競争入札・随意契約の有無も含め透明性・公平性の確保についての町の考えをお聞きする。</p>
		2. 新道の駅整備計画について	<p>新道の駅整備計画にかかる基本設計が進むなか令和6年9月18日開催、新・道の駅整備に係る調査特別委員会において中間報告が行われた。基本設計期間が令和6年9月27日に延長されたため概略の説明ではあるが、町HPで公開されている概算事業費29億7千万円を大幅に超える可能性について言及があった。</p> <p>基本設計が終了した現時点での、概算事業費及び現在想定している建設財源についてお聞きする。</p> <p>一例として、まちづくりセンター移転計画では機能設備の変更や面積変更により予算内での施行に並々ならぬ努力をされたと思うが新道の駅整備計画においても同様に事業費圧縮のための努力をされた結果と理解してよろしいか。詳細をお聞きする。</p> <p>議会より提出した提言の反映状況と、今後実施設計に移行するにあたっての事業費圧縮の可能性についてお聞きする。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
7	11番 斎藤 弥志夫  (一問一答)	1. SDGsとカーボンニュートラル	<p>SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された2030年までの持続可能な開発のための国際目標で、17の目標があつて相互に関連している。</p> <p>カーボンニュートラルとは温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることである。SDGsは環境問題だけでなく、貧困、飢餓、健康と福祉、教育、水、エネルギー、経済、技術、海と陸の豊かさなど多面的に地上の問題をとらえて全般的にバランスのとれた解決を計っている。私が注目するのは、SDGsとカーボンニュートラルの関係と類似性である。目標7ではエネルギーをみんなにクリーンに、目標13では気候変動に具体的な対策をとあるが、再生可能エネルギーの普及とほとんど同じで、カーボンニュートラルの具体的な方策とも合致する。カーボンニュートラルを単発で実行するよりも、SDGsの広範な取り組みの中でできることからCO<sub>2</sub>の削減に取り組む方が合理的で現実的である。</p>
		2. 防災マップ	<p>防災マップの目的は、まちの災害危険性を知ることが大切であることから、国土、地域、まちの状況等、災害に関する正しい知識を住民が理解することにある。</p> <p>北海道のニセコ町では防災ガイドマップに弾道ミサイル落下時の行動についてJアラートの情報で危険な場所から離れ、落ち着いて行動するようにと記載されている。ニセコは知名度が高く、インバウンドで訪問する外国人が多く防災ガイドマップの英語版も用意している。遊佐町もこのような対応が必要と考える。</p> <p>来年発行する予定の防災ガイドマップは、7月の大雨の教訓を踏まえたものにするのが妥当である。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
8	3 番 駒井 江美子  (一問一答)	1. 健康保険証について	<p>12月2日に現行の健康保険証の発行が終了となり、その後はマイナ保険証に移行することとなる。デジタル化で手続きが便利になるはずが、トラブルが続いてマイナ保険証の利用率はあまり上がらず、病院等では負担が増えると心配の声も全国的に上がっている。そこで町の考えと対応をお聞きする。</p> <p>①マイナ保険証のない方への対応 ②病院等への対応 ③資格確認書の取り扱い</p>
		2. 洋上風力の安全性について	<p>今年12月に業者が選定予定で、今後事業が具体的に動いていくことになる。改めて町民の安全を守るために町は、どのように国に働きかけていくのかお聞きする。</p>
		3. 町所有の施設管理について	<p>町所有の施設である蔵岡まちづくりセンターは、移転が決まっているとはいえ、老朽化が激しく、職員や利用者の安全確保に課題があるように見える。町の施設管理のあり方をお聞きする。</p>
9	8 番 佐藤 俊太郎  (一問一答)	1. 豪雨災害を受け、その被害状況を把握分析し今後の町政にどのように反映させるか	<p>○被災者への対応は 長期避難場所の確保等 ・災害復旧仮設住宅等の設置予定場所の有無は。 ・初期避難場所におけるプライバシーの保護、冷暖房対策等は。 ・復旧に関し各種補助金等の周知説明、手続き方法等の周知は。 ○災害ゴミ対策は ・今回、2箇所を集積したが1箇所は程なく満杯になった。複数の場所確保と早期の処理方法の検討は。 ・ゴミの搬送手段を持ち合わせていない被災者への対応は。 ○消防団員の装備品に関する検討は ・救命胴衣(ライフジャケット)、胴付き長靴、ゴムボート等の配備が必要では。 ○豪雨災害の被害を出来る限り少なくするための施策は ・町が対処すべき事項は何か。 ・町民が対処すべき事項は何か。(町の啓蒙・啓発活動)</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
10	5 番 渋谷 敏 (一問一答)	1. ふるさと納税制度における遊佐町の取り組みについて	<p>2008年に創設された「ふるさと納税制度」について、わが町でも多くの寄附金をいただき財政面や地元産業に多大な影響を受けている。しかし、現状においては自治体間の競争が激化しており、ブランド力の推進や情報発信力などの課題も多い。</p> <p>本町は、急速に進む人口減少と高齢化率の上昇に加えて個人所得の減少、さらには予期せぬ災害等により、財政は厳しい状況にある。</p> <p>このことから、財源を確保するための一策である「ふるさと納税制度」について、その取り組み内容と今後の事業進展について伺う。</p> <p>1. 当町のふるさと納税統計データによれば、近年変動が大きく税収の見込みを立てにくい状況にある。変動要因をどのように捉え、これまでに講じてきた対策を問う。</p> <p>2. 魅力あふれる遊佐町において、返礼品が目先の「安値感」「お得感」ではなく、品質の良さによる差別化をどのように図るか。</p> <p>3. 返礼品の競争が激化する中、地域振興を目的としたブランド事業とどのように関連性をもって取り組むか。</p>
		2. 行政相談の対応状況について	<p>高齢化に伴う交通インフラ整備等が急がれる中、専門的な相談や来庁できない方への丁寧な対応が必要であると考え。現状の相談体制における課題と今後の対策について伺う。</p> <p>1. 災害やインフラ整備、税金滞納者対応など町の事業に関する相談や要望の対応は重要なこと。行政ならではのきめ細やかな町民サービスを提供する上で、多岐にわたる相談業務の実施体制と課題について問う。</p> <p>2. 相談されたすべての内容は、町の行政運営において大切なこと。庁内でどのように共有して町の課題解決につなげているか。</p>